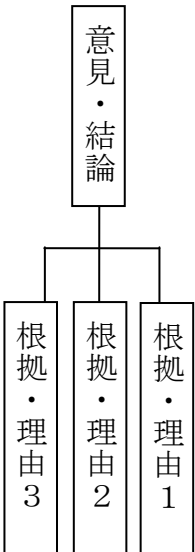


単元名		年 組 番
三年 説明文を読む		
氏 名		

説明的文章の構成には、結論の位置によって3つのパターンがある！

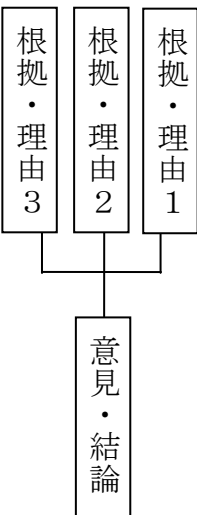
① 頭括式 とうかつ

…初めに自分の意見（立場）を述べ、その後に根拠を示す方法。



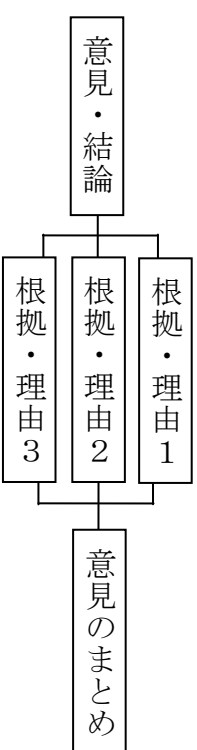
② 尾括式 びかつ

…初めに根拠を示したうえで、最後に自分の意見（立場）を述べる方法。



③ 双括式 そうかつ

…自分の意見（立場）を示してから根拠を述べ、最後にもう一度、意見のまとめを述べる方法。



頭括式は、筆者が、

- 結論を先に示した方が、説得しやすいと思う場合、
 - 結論が優れている、と自信をもっている場合、
 - すぐに結論を伝えたい場合、
- などに有効です。

尾括式は、読者にじっくり

最後まで読んでもらいたい場合の書き方に向いていますよ。



わたしは説明的文章を読むことが苦手で、どこに作者の意見がまとめられているか、よく読んでみないと、これまでではよくわからなかったんだけど、この形式を使って書かれている場合が多いことを知っていれば、見当がつくわ。

説得力のある意見文を書くときにも、この三つのパターンはきつと役に立つわね。そして書いた後は、読み手の立場に立って読み返して確認し、推敲することが必要なのね。



チャレンジシート② 基本1

問題

学習日

年

月

日

単元名		年 組 番		3 問
三年 説明文を読む		氏 名		

1 次の文章を読んで、(1)・(2)の中に入る言葉を文章中から書き抜きなさい。

小見出し

語は「(1)」が命

国語辞典で「休憩」をひくと、「休息」とも書いてある。ほとんど同じ意味、と書かれているのだ。しかし、「休憩」と「休息」では感じ方が少し違う。

もし、あの有名なフランス映画の題名「戦士の休息」が、「戦士の休憩」と訳されていたら、なにか間の抜けた感じがする。

「(2)」が違うからだ。

約1万語についての「語感」、その語が持つニュアンスを説明する辞書が「語感の事典」だ。著者の中村明さんは、その「まえがき」でこんなふうに書いている。

「休憩」か「休息」か迷ったとき、「休み」と書けば、微妙な違いに悩まされはしない。だが、「休み」で済ませるのは、松も柳もクスノキも無差別に「(3)」と片付けるような荒っぽさで現実を切り取ったことになる。自分の伝えたい意味合いを正確に表すのにもっとも適切な表現を探そう。

文章を書く際、「語感」を確認しながら言葉を探せる辞典だ。文学作品の用例も多く、読みがある。同時に、報告書や依頼書、企画書など書くことを毎日求められる仕事、つまり普通の会社員にも便利な一冊だろう。

(1)

(2)

2 (3)に入る語を考えて答えなさい。

(3)

※ヒント

(1)は、(2)より長めの言葉、(2)は2字、(3)は1字です。

チャレンジシート② 基本2

問題

学習日

年

月

日

単元名	年組番	4問
三年 説明文を読む	氏名	

次の会話を読んで、あとの問に答えなさい。

キッタ君 日本の新型ロケットが打ち上げられるんだって？

シュウちゃん 個体ロケットの「イプシロン」だね。宇宙航空研究開発機構が開発したんだよ。太陽系の惑星を観測する衛星を積むんだ。

キッタ君 どこが新しいの？

シュウちゃん イプシロンは探査機「はやぶさ」を打ち上げたことで知られる「M5」ロケットの後継機なんだ。部品を減らして組み立ての時間を削ったり、打ち上げ前の点検作業はロケットに積み込んだ人工知能に自動でやらせたり、大幅に省力化したんだよ。

キッタ君 賢いロケットに、お任せなんだね。

シュウちゃん そう。打ち上げの管制はパソコン2台で準備に1か月以上もかかったのに、イプシロンは6日間で済むんだって。打ち上げ費用はM5の半分以下だよ。

キッタ君 ロケットにはH2Aもあるけど、どう違うの？

シュウちゃん H2Aは液体燃料を使うんだ。推力が大きいので大きな荷物を運べるよ。イプシロンは固体燃料を使うんだ。これは、H2Aの固体補助ロケットを流用したものだ。構造が簡単で運用しやすく、信頼性も高いんだ。

問1 イプシロンの特徴は何か。漢字三字で書き抜きなさい。

答 ()

問2 どこが新しいのですか。文章中の言葉を使って二つ答えなさい。文末は、終止形にすること。

答

答

問3 どう違うのとあるが、違いは何か。「〜こと。」の形で答えなさい。

答

※ヒント 問2、問3は、シュウちゃんの言葉の中から探してみよう。

三年 説明文を読む		単元名	
氏 名		年 組 番	
		1 問	

次の文章を読んでふさわしい題名を考えて答えなさい。

麻布大学教授の高槻成紀^{たかつきせいき}は野生動物と人間の共存という視点で研究している。彼は原発事故と野生動物について講演をしたことがあり、その中で、動物に蓄積された放射能の測定結果をもとに、獣医師の現場から影響を鋭く警告した。

その後、日本哺乳類学会の溝口氏から「国際原子力機関とイノシシの調査をするので協力してほしい」と言われ、迷わず引き受けた。東北の阿武隈山系の自然の美しさをよく知っており、原発事故直後から、何か貢献できないかと思っていたからだ。

食べ物と被ばくとの関係を調査した。チェルノブイリ事故データを調べると、イノシシの体内被曝は年を追うごとに低下せず、上がった例もある。その理由は、現在、放射性物質が地下10センチのところまで浸透しているのだが、イノシシは、その地中10センチに育つキノコを掘り返して食べるからだ。日本でもイノシシの数値は上がる傾向にある。こうした調査を幅広くやれば、環境への放射能物質の影響を予想する手がかりになる。

国際原子力機関の専門家会議が福島県であった。動物の肉が食べられない。観察したり記録したりする調査の継続が必要―。高槻は福島県の説明をきいて、どこか人間中心の身勝手さを感じた。

「動物を食べ物として見るだけではなく、人間が自然の破壊者だという視点が大切だ。その反省の上で何を世界に発信するかを考えるべきだ」

目先の成果も大事だが、地球史的な長い目で記録を残す意味を確認しておきたかった。高槻は「動物にとって、私たちは加害者なんです」と言った。

答